

【彙報】（平成二十八年四月〜平成二十九年三月）

◎平成二十八年年度埼玉大学国語教育学会大会・総会

○平成二十八年十二月十七日（土） 於埼玉大学

◇卒業論文構想発表会（学部3年生）

◇修士論文構想発表会

関根睦美 香取千尋 戸田遼太郎

◇研究発表

①「青銅器銘文における明德慎罰思想」

権田 瞬一（埼玉大学大学院2年生）

②「陳寿の歴史観―『三国志』の構造―」

新井 亮（埼玉大学大学院2年生）

③「怪談における語りの方―近世怪談と現代怪談の比較から―」

佐藤 祐里（埼玉大学大学院2年生）

④「古典教育の史的研究」

杉山 里奈（埼玉大学大学院2年生）

⑤「江戸川乱歩と心理学」

早田ひろみ（埼玉大学大学院2年生）

⑥「思考の『見える化』に関する実践的研究―通信制高校におけるマッピングの分析―」

藤倉 遼介（埼玉大学大学院2年生）

◇講演

「アクティブラーニングを実現する課題の発想法―学習者が自ら学習材を作り出す―」

講師…小原 俊先生（文部科学省初等中等教育局教科書調査官）

◇総会

◎平成二十八年年度例会

○平成二十九年二月四日（土） 於埼玉大学

◇卒業研究発表

①読書活動の充実に向けた小学校国語科学習指導の研究

②『莊子』内篇にみる「道」の様相

③源氏物語・女三宮考

④高村光太郎考

◇研究発表（修士論文発表）

①怪談における語り的手法―近世・近代・現代の比較から

②大衆文学という仮面―初期作品に見る乱歩の素顔

③古典教育の通史的研究―中学校を中心として

④マッピングにおける思考の形成過程の研究

⑤陳寿の歴史観―『三国志』の構造と天命

⑥『尚書』と青銅器銘文の相關研究―「明德慎罰」を端緒として

◇長期研修教員研究発表

思考力・判断力・表現力をはぐむ国語科授業の研究―アクティヴ・ラーニングの視点からの授業改善

◇研究奨励賞授賞式

◇講演

「国語科教師の育成に向けて」

松澤勇治（埼玉大学教職大学院特任教授）

◎平成二十八年年度修士論文・卒業論文題目

○修士論文題目

「怪談における語り的手法―近世・近代・現代の比較から」

「大衆文学という仮面―初期作品に見る乱歩の素顔」

「古典教育の通史的研究―中学校を中心として」

「マッピングにおける思考の形成過程の研究」

「陳寿の歴史観―『三国志』の構造と天命」

「尚書」と青銅器銘文の相關研究―「明德慎罰」を端緒として

○卒業論文題目

『孝経啓蒙』と中江藤樹の思想

『搜神記』に見られる冥界と鬼観について

コミュニケーションを育む中学校国語科学習指導の研究―語感を磨き、語彙を豊かにする―

狐信仰の研究

小学校における漢字学習の研究―児童の主體的な学びを目指して―

小説における作者と読者の関係

『和泉式部日記』の主題―表現と構成を手がかりとして―

金子みすゞの童謡における（さみしさ）

須内 祐太

麻生 千晶

荒木 鈴絵

板倉 遼大

井田 庸一

岩瀬 祥平

上野 友亮

大内 茉奈

新井 亮

藤倉 遼介

権田 瞬一

杉山 里奈

早田ひろみ

佐藤 祐里

武井 成臣

藤本あゆみ

江戸川乱歩研究—モダニズムの中で—

大嶋 孝介

神話の比較から見た原初人類の実像

奥田 勇氣

太宰治「ダス・ゲマイネ」

遅澤 翔

『雨月物語』における上田秋成の人間観

小原田彩乃

遠藤周作とキリスト教

島山 新汰

浦島太郎の変遷と意味

清瀬 佑基

戯曲における言葉遊び的手法について

—小林賢太郎の台本を手掛かりに—

呉羽 葵

生涯を通して読書に親しむ態度を育成するための

小松ひとみ

読書活動の充実に向けた小学校国語科学習指導

佐久間琴弓

の研究—学校図書館の活用を通して—

島田 知奈

文字の美しさに関する研究

鈴木玖実子

「伝え合う力」を育む言語活動の充実を図る授業実践研究—話し合い活動を中心に—

瀧島 翔平

通常学級に在籍する「発話障害」の児童に対する

アプローチ

『莊子』内篇にみる「道」の様相

武井 成臣

生涯を通して読書を支える読書活動の研究

富澤 由梨

—中学校を中心に—

富田 大貴

日本霊異記の現世観

大村はま「単元学習」のレパートリー化についての一考察—甲斐利恵子の継承的実践を手掛かりに—

新妻 千紘

思考力・判断力・表現力を育む国語科指導研究

小野寺純也

王維の自然観

「読解力」を育む読みの指導研究

—説明的文章を中心に—

坂口安吾論—安吾の説話形式小説について—

兼好の人生観—著作を中心に—

草枕論—画工の美—

源氏物語・女三宮論

国語の授業時における文字指導のあり方—ディ

スレクシア児を視野に入れて—

高村光太郎考

主体的に学び、学習意欲を育む高等学校国語科

学習指導の研究

—松永 千希

小学校における古典教育に関する研究—古典に

親しむ学習活動—

「好色五人女」研究論

小町歌研究—夢歌を中心に—

ファンタジーを教材として扱うことの意義

—あまきみこ「白い帽子」を例に—

『堤中納言物語』編纂の意図

—作品の相互関係から—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

根岸裕理子

春山 晃宏

藤井美帆子

藤田 莉徳

藤卷 亮太

藤本あゆみ

星 幸輝

細井 昌弥

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

高村光太郎考

主体的に学び、学習意欲を育む高等学校国語科

学習指導の研究

—松永 千希

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

編集後記

『埼玉大学国語教育論叢』第21号をお届けします。

本号も昨年同様、多彩な論稿を掲載することができました。人文系の諸学問に対する社会政策的な無理解が進む中、本学会誌の内容が充実したものになって行くことはとても望ましいことと言えるでしょう。今後とも会員諸氏には益々のご投稿をお願いいたします。

ところで、本学会としても嬉しい情報が届きましたので、お知らせいたします。本学会誌13号掲載の木越隆埼玉大学名誉教授の講演『枕草子』の性格が、東京都の高校入試問題に使われたとのこと。このことは、本学会誌がその社会的意義を認められていることの一つの証左ともなるもので、この場を借りて木越先生に感謝申し上げます。

T